

南陽市内で調査が行われた遺跡について、わかりやすく紹介する「埋蔵文化財ニュース」です。

遺跡が身近にあるということ、その遺跡がどのようなものであるかを知っていただき、郷土の歴史に興味を持っていただければ幸いです。

「埋蔵文化財ニュース」は、年数回更新を行い市内の遺跡を紹介します。基礎的な用語についても随時解説しますので、ぜひご一読ください。

(※右側にバックナンバー (PDF) もありますので、あわせてご覧ください。)

今回は、「長岡山遺跡 (ながおかやまいせき)」をご紹介します。

### ◎遺跡の概要と調査経過

「長岡山遺跡」は、南陽市長岡にある「国指定史跡 稲荷森古墳」から北東に約 250m の丘陵地にあります。遺跡の大部分が現在の「南陽市立赤湯小学校」の敷地内に含まれており、旧石器時代から中世の遺跡です。

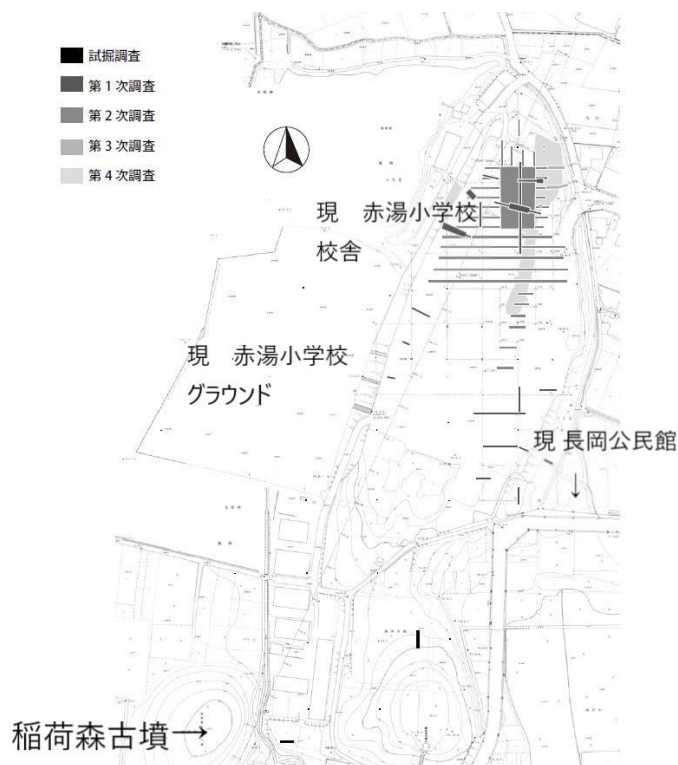
元々この場所には「赤湯園芸高等学校」がありましたが、廃校後、建物が解体されました。その後、「南陽市立赤湯小学校」建設候補地となったため、平成 4 年度に試掘調査を実施しました。また、平成 9 年度に建設計画が確定したことから、平成 10 年度及び平成 12 年度に合計 4 回 (第 1 次調査～第 4 次調査) の発掘調査を実施しました。

### ◎長岡山遺跡全景 (北から撮影 写真右上に「国指定史跡 稲荷森古墳」)



長岡山遺跡 第 4 次調査時全景 (北から)

## ◎長岡山遺跡の調査範囲



## ◎長岡山遺跡の調査成果

### ①検出された主な遺構

※「赤湯園芸高等学校」の建設・解体時に大規模な整地（掘削や削平）を実施していたため、遺構の残存状態がとても悪い状況でした。

### ◎方墳または方形周溝墓（ほうけいしゅうこうぼ ※1）

古墳時代の墓で、4基検出されました。4基全て向きが同じのため規則性がみられましたが、残存状況が悪く時代差などの判断はできませんでした。

### ◎墓坑（ぼこう ※2）

古墳の埋葬部にあたる部分で、出土した遺物から古墳時代前期（4世紀頃）のものと考えられますが、削平のため古墳の全体像を明確に把握することはできませんでした。

### ◎複数の溝跡

長いもので南北約100m、幅1m、深さ1m弱を計測しました。中世の館に伴うものと考えられますが、遺物が少なく年代は判断できませんでした。

## ②検出された遺物

| 調査名   | 調査年度   | 出土数<br>(※整理箱数) | 出土内容                                                                                                               |
|-------|--------|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 試掘調査  | 平成4年度  | 19箱            | 縄文土器が圧倒的に多く、大部分が遺構に伴ったものではないため、あまり情報が得られない状況でした。その他土師器や須恵器、鉄斧も出土しました。                                              |
| 第1次調査 | 平成10年度 | 11箱            | 地表面から約1～1.5mの層から <a href="#">縄文時代（※3）</a> 中期頃の縄文土器が多数出土しました。また溝跡から「鉄剣・ <a href="#">鉄鏃（てつぞく ※4）</a> 」などの鉄製品が出土しました。 |
| 第2次調査 | 平成10年度 | 3箱             | 遺構に伴うものではなく、殆どが縄文土器でした。                                                                                            |
| 第3次調査 | 平成12年度 | 2箱             | 出土量は少なく、殆どが縄文土器でした。                                                                                                |
| 第4次調査 | 平成12年度 | 51箱            | 遺跡北西の斜面から大量の縄文土器が出土しました。                                                                                           |

※整理箱：80cm×50cm×10cm 程度の大きさのもの

（以下、出土遺物の一部を掲載）

### ◎縄文土器



長岡山遺跡出土 縄文土器（4）



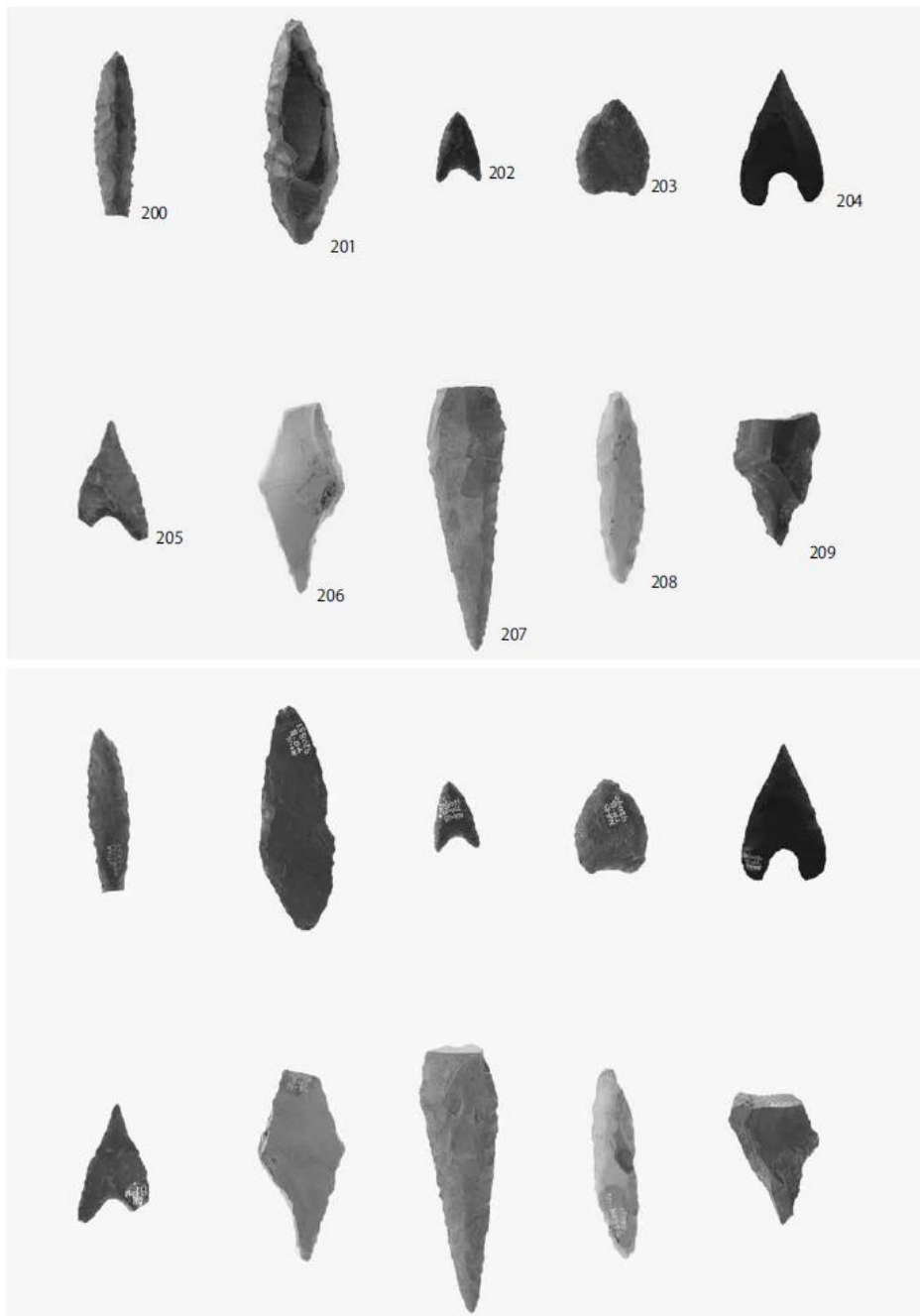
長岡山遺跡出土 縄文土器（5）

◎石器類（下の番号と写真内の番号がリンクします）

200～201：[尖頭器（せんとうき ※5）](#) 長さ約 40～55mm

202～205：[石鏃（せきぞく ※6）](#) 長さ約 17～33mm

206～209：[石錐（せきすい ※7）](#) 長さ約 31～65mm



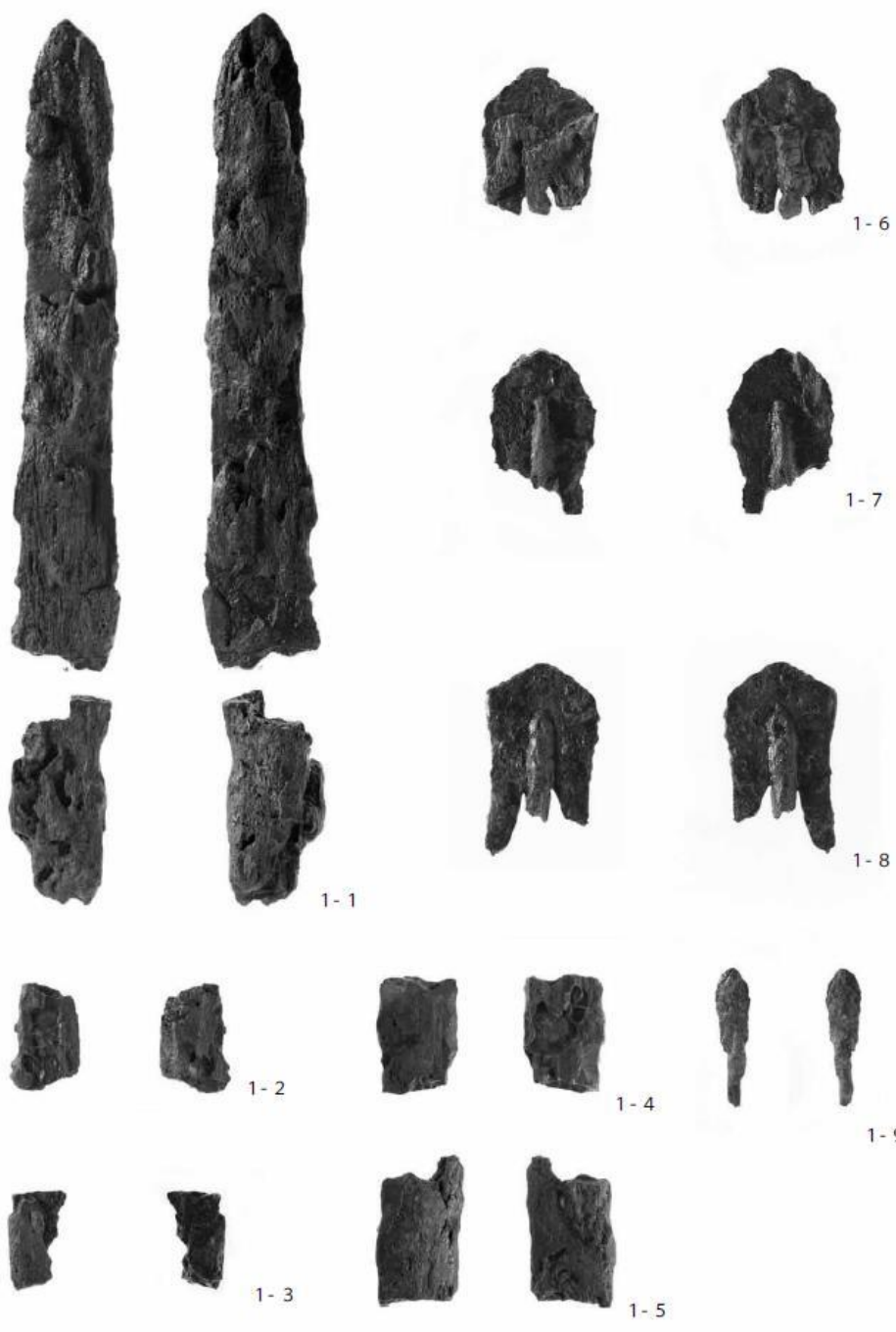
長岡山遺跡出土 石器（1）

◎鉄製品（下の番号と写真内の番号がリンクします）

1-1：鉄剣（てっけん） 長さ約 236mm

1-6～9：鉄鏃（てつぞく） 長さ約 40mm

1-10：鉄斧（てっぶ） 長さ約 95mm





1-10

◎鉄製品（エックス線撮影画像）





写真図版1 鉄製品X線写真

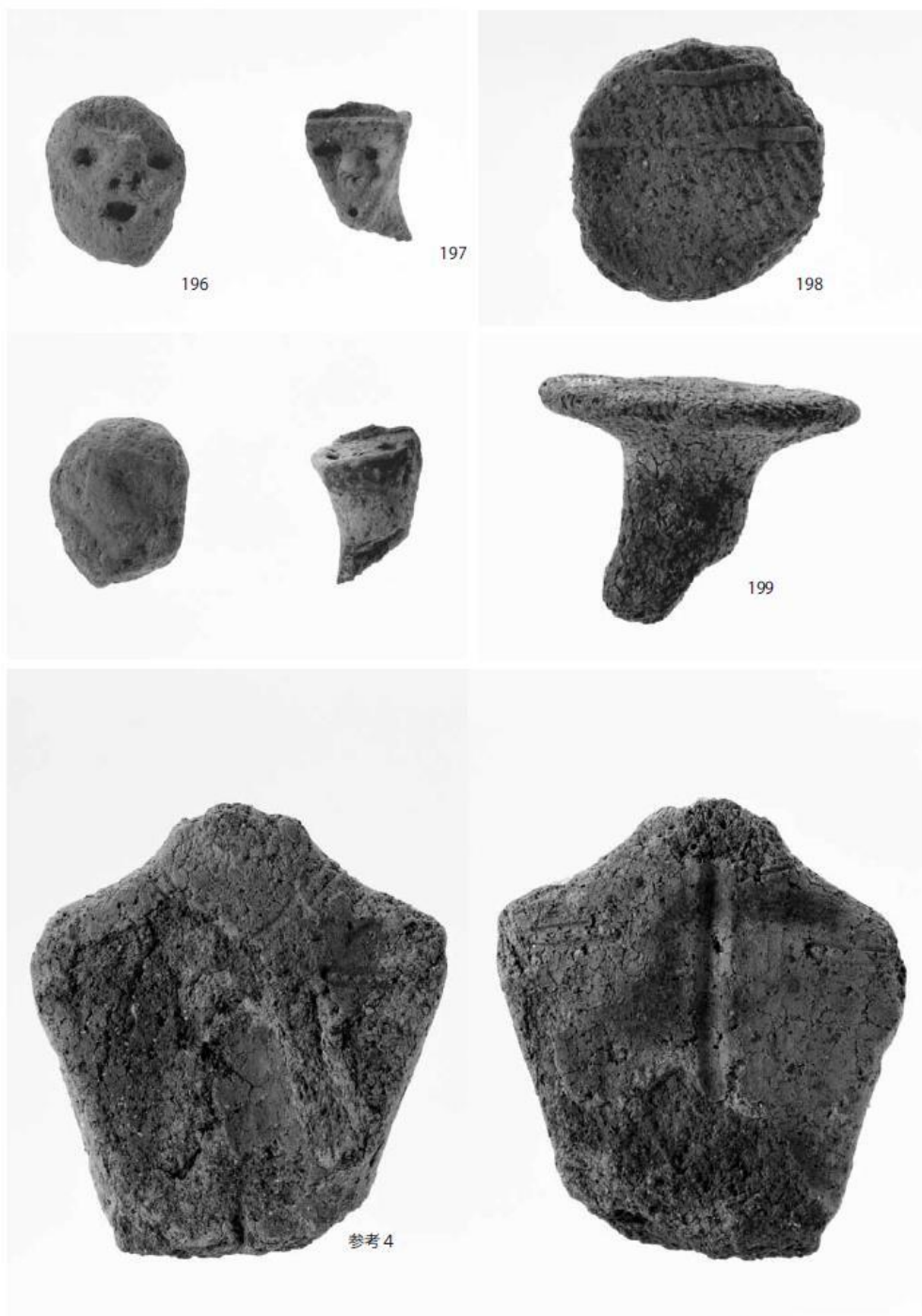
◎土偶・土製品（下の番号と写真内の番号がリンクします）

196～197：[土偶（どぐう ※8）](#) 大きさ約 30～40mm

198～199：土製品（どせいひん）

参考4：土偶 大きさ約 135mm



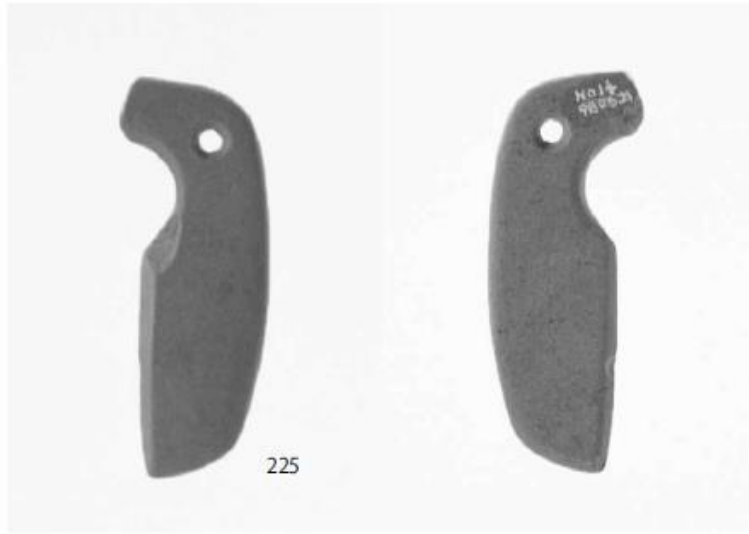


長岡山遺跡出土 土偶・土製品

◎石製品（下の番号と写真内の番号がリンクします）

225：[けつ状耳飾り（※9）](#) 長さ約 47mm

226：[岩偶（がんぐう ※10）](#) か？ 大きさ約 170mm



長岡山遺跡出土 石製品

## ◎まとめ

「長岡山遺跡」は、土偶などの祭祀に係る遺物がまとまって出土していること、岩偶と思われる遺物が出土していること、縄文時代中期の縄文土器等がまとまって出土していることから、同時期のこの地域の中核的な集落跡の遺跡である可能性が高いと考えられます。

また、時代は下りますが、方形周溝墓や、鉄器を伴う遺構の発見などからみて、古墳時代の遺跡としても重要な場所であることがわかりました。

## <遺跡までのアクセス>

JR 赤湯駅から車で約 5 分。徒歩約 25 分です。「国指定史跡 稲荷森古墳」の近くに位置しますが、小学校の敷地内のため無断立ち入りはできません。

## 用語説明

|                      |                                                                          |
|----------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 埋蔵文化財                | 土地に埋蔵されている文化財のこと。具体的には、貝塚・集落跡・古墳・城跡などの遺構と、土器・石器・木製品・金属製品など遺物を指す。         |
| 遺跡                   | 文化財が埋蔵されている土地のこと。埋蔵文化財包蔵地。                                               |
| 古墳                   | 3 世紀後半から約 400 年の間に作られた土を盛り上げた墳丘をもつお墓。                                    |
| 前方後円墳                | 丸い古墳（円墳 えんぷん）と四角い古墳（方墳 ほうふん）をつなげたような形状をした古墳。                             |
| 遺構・遺物（いこう・いぶつ）       | 遺構は、過去の人間が残した建物跡や柱穴等の動かすことができないものの総称。遺物は、過去の人間が残した土器や石器等の動かすことができるものの総称。 |
| 土師器（はじき）             | 野焼きで焼かれた茶褐色の土器。弥生時代からの技術を引き継いだもの。煮炊きや食器用として使われたと考えられる。                   |
| 須恵器（すえき）             | 元々は古墳時代に朝鮮半島から伝わった青灰色の硬い土器。高温の窯で焼かれ、貯蔵用や食器として使われたと考えられる。                 |
| 古墳時代（こふんじだい）         | 弥生時代に続く 3 世紀後半から 7 世紀の時代。大型古墳の建造や鉄器の普及など大きな変化があった。                       |
| 方形周溝墓（ほうけいしゅうこうぼ）※ 1 | 弥生時代から古墳時代前期まで作られた墓。墓を方形・長方形の溝で囲い、その溝の内側や溝に埋葬するもの。木製の棺、壺、甕（かめ）などに入れ埋める。  |
| 墓坑（ぼこう）※ 2           | 遺体の埋葬のために掘った穴。                                                           |
| 縄文時代（じょうもんじだい）※ 3    | 約 12,000 年前から約 2,400～2,500 年前まで続いたとされる。使用された縄文土器の特徴により、草創期・早期・前期・中期・後期・  |

|                      |                                                                                                         |
|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                      | 晩期に区分される。                                                                                               |
| 鉄鏃（てつぞく）※4           | 鉄製の矢じり（弓矢の矢先につけるもの）。                                                                                    |
| 尖頭器（せんとうき）※5         | 槍の柄の先につけた狩猟用の石器。                                                                                        |
| 石鏃（せきぞく）※6           | 石製の矢じり。                                                                                                 |
| 石錐（せきすい、いしきり）※7      | 先端を錐（きり）状に尖らせてある穴をあけるための石器。                                                                             |
| 土偶（どぐう）※8            | 土で作った人形。通常は縄文時代のものを指す。形は女性を意識したもので子孫の繁栄や豊穡などの祈願に使用されたのではないかと考えられる。                                      |
| けつ状耳飾り（けつじょうみみかざり）※9 | 縄文時代のアクセサリーの一つ。形は円形、楕円形、三角形などがある。縄文時代前期から中期に多くみられる。「けつ」は中国の「玦（けつ）」という玉器（ぎょつき 宝石のようなもの）に似ているところから名付けられた。 |
| 岩偶（がんぐう）※10          | 縄文時代の石製の人形。土偶同様に信仰に関係するものと考えられる。東北地方に多い。                                                                |

【更新日 令和4年10月7日】